《 Report on the AI Lab Course 》

マップ AI 探求ラボ「はじめての AI」

～ AI で小説と挿し絵を作ってみよう！ ～

マップ教育センター主催。マップ AI 探求ラボ「はじめての AI」を 2026 年 9 月 5 日（土）に、マップラザにて開催しました（参加者は下記 6 名）。

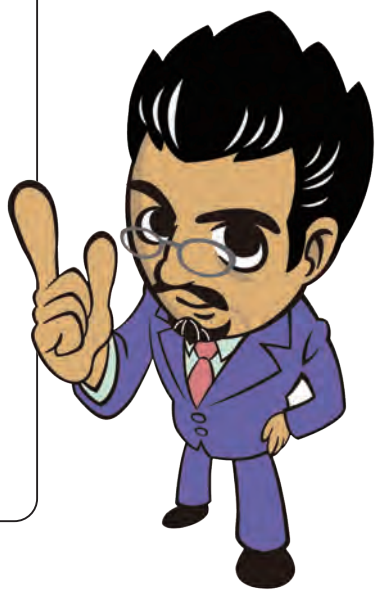
以下は、当日の講義内容とそのときの様子をレポートした（まとめた）ものです。

《最後に、完成した作品もご紹介します》

- 大嶋秀樹 塾長（兼カメラマン）
- 保護者（1 名）
- 中学生（1 名／マップ生）
- 小学生（1 名／マップ生）
- ＯＢ　（1 名／マップ第 8 期卒業生）
- 大崎哲也 マップスタッフ（兼ファシリテーター）

《 Progress table（進行表）》

1. オープニング
2. 「AI って何？」
3. AI の「弱点」とは
4. 子どもの学習と AI
5. AI への「お願い」の仕方
6. 実習 ①「小説を作ろう」
7. さらに「AI と一緒に改良する」
8. 実習 ②「挿し絵を作ろう」
9. 「文章+画像」で作品完成
10. AI 時代！ 子どもに必要な力



イメージキャラクター
大嶋秀樹 塾長

1. オープニング（大嶋塾長のあいさつとマップ AI 探求ラボの趣意）

今日は「AI について勉強する」というよりも、実際に AI を使って楽しみながら体験していただきたいと思います。最近「AI」という言葉をテレビやインターネットで見ない日はありません。

でも「**AI って結局何なの？**」「**子どもに使わせて大丈夫なの？**」「**勉強に使わせると、楽をするだけにならない？**」という疑問をお持ちの方も多いのではないでしょうか。

今日は、そうした疑問について簡単にお話したあと、実際に AI を使って、みなさん自身の手で短編小説を作ってみます。さらに、その小説の挿し絵まで AI に作ってもらいます。今日の講座で、ぜひ「AI ってこんなことができるんだ」という感覚を持っていただければ幸いです。

写真／本日の進行台本（レジュメ）を持って、ごあいさつをする大嶋塾長

2.「AI って何？」

まずは、検索エンジン（Google や Yahoo!）で「Open AI 」と入力して、「Open AI 」のサイトに行きます。ここから、AI（Chat GPT）を利用した、マップ AI 探求ラボがスタートします。

写真／ネットへのアクセスを解説する大崎先生

さてさて、AI とは何でしょう…？

簡単に言えば、人間の「考える・作る・判断する」をコンピューターで支援する技術です。そして、AI ができることは「**文章を作る**」「**質問に答える**」「**要約する**」「**アイデアを出す**」「**翻訳する**」「**プログラムを書く**」「**絵を作る**」「**音楽などを生成する**」などです。

では、ここで「AI の実演」をしてみます。

まずは、持参した各自のデバイスに、みなさんが同じように「**面白い小説を書いて**」と入力してください。

ちなみに、入力する（書き込む）内容のことを〝プロンプト〟と言います。

さて、みなさん結果はどうでしょう。みなさんが、同じタイトルで、同じ内容になりましたか…。

▶「**同じタイトル**」で「**同じ内容**」**にはならない。**

▼ **なぜ、だろう…。**

理由を簡単に説明すると、AIが、持参した各自のデバイスを感知して、みなさんの個人情報や閲覧したWebサイト、保存したデータなどを集約して、その人に合った内容の「面白い小説を書いて」いるからです。つまり、AIがみなさんのデバイスから多種多様な情報を集めて、プロンプトに対する最適解を生成しているのです。冷静に考えると「怖い」ですネ。

では、次に「主人公を小学5年生の女の子にしてください。舞台は東京。少し不思議な物語にしてください」と変更、追加します。
どうですか…。内容が変化しました。

このように、AIとの会話によって答えが変化していくことが、確認できます。
AIは検索「窓」に質問して（書き込んで）終わり、というものではありません。会話（書き込み）をしながら、自分の欲しいものに近づけていくことができます。

3. AIの「弱点」とは

でも、AIは「いつも正しい」とは限りません。これは「ハルシネーション」と呼ばれ、AIがもっともらしく見えるのに、事実ではない内容を生成してしまうことです。

例えば、

・「**AIが間違えることがある**」例、歴史（戦史）に関する内容などは、多面的な視点があります。
・「**存在しない情報を、それらしく答えることがある**」例、俗に言う「フェイク」などです。
・「**人間のように責任を取ってくれるわけではない**」例、そりゃそうだ…。
・「**個人情報などを安易に入力してはいけない**」※とても大切なことです。

などです。

つまり、AIは「先生」ではなく「便利な道具」という位置づけなのです。

4. 子どもの学習とAI

AIは、子どもの勉強に使っていい？
それは「YES」でもあり「NO」でもあります。

▶良い使い方

例えば、
「この問題の答えを教えて」ではなく、
「この問題を解くためのヒントを、小学生にも分かるように示して」と聞きます。
これだけで大きく変わります。

▶悪い使い方

「読書感想文を全部書いて」→ そのまま提出
これは AI を「代わりにやってくれる人」として使っています。

▶良い使い方

「この本について、自分の感想を整理するための質問を 5 つしてください」→ ヒントをもらう
これは AI を「考えるための相手」として使っています。

小・中学生の勉強において、AI は「答えをもらう」のではなく「考えるために使う」ものであることを認識してください。
実は、この「進行台本（レジュメ）」も AI が生成し、リライト（修正作業）をして完成させています。

5. AI への「お願い」の仕方

ここからは、実習への導入です。AI は「お願いの仕方」で変わります。
先程「面白い小説を書いて」と入力（プロンプト）しました。

ここでは…
▶「誰が」「どこで」「何を見つけて」「どうなるのか」という情報を、こちらから伝えます。

AI にお願いするときには、こちらが「何を作りたいのか」を具体的に伝えるほど、自分のイメージに近づいていきます。繰り返しになりますが、こうした AI への指示を「プロンプト」と呼びます。

6. 実習①「小説を作ろう」
7. さらに「AI と一緒に改良する」

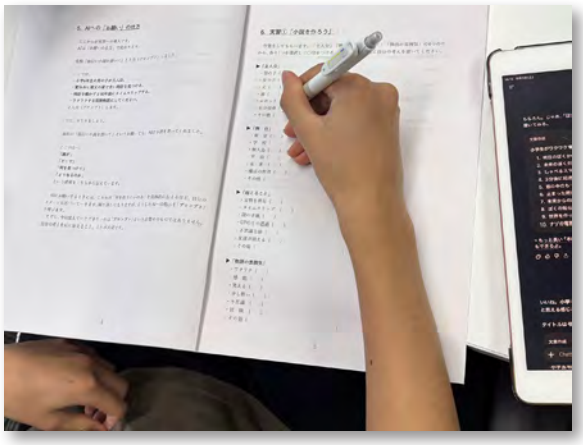
では、実際にみなさんに作業をしてもらいます。
AI に伝える情報は「**主人公**」「**舞台**」「**起こること**」「**物語の雰囲気**」の 4 つです。以下に、それぞれの項目（詳細な情報）を用意しました。好きなものを選択して〇印をつけてください（二つまでＯＫ）。もしくは、その他に自分の考えを書いてもいいです。**→ 参加者 6 名が作業にとりかかりました。**

▶「主人公」
男の子（　　）／女の子（　　）／犬（　　）／猫（　　）／ロボット（　　）／
自分自身（　　）／その他（　　）

▶「舞　台」
東　京（　　）／学　校（　　）／無人島（　　）／宇　宙（　　）／未　来（　　）／
魔法の世界（　　）／その他（　　）

▶「**起こること**」
宝物を発見（　　）／タイムスリップ（　　）／謎の手紙（　　）／UFO との遭遇（　　）／
不思議な扉（　　）／友達が消える（　　）／その他（　　）

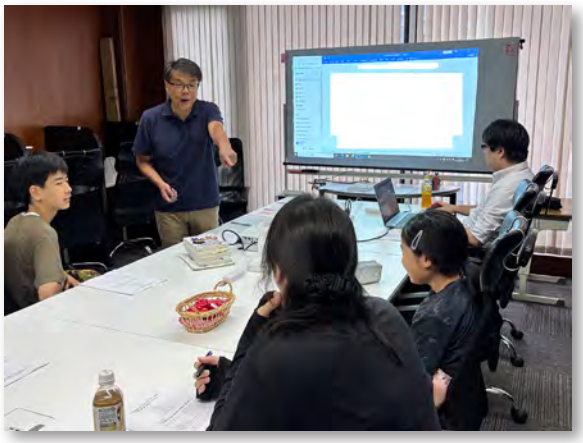
▶「**物語の雰囲気**」
ワクワク（　　）／感　動（　　）／笑える（　　）／少し怖い（　　）／不思議（　　）／
冒　険（　　）／その他（　　）



上写真／私の考えは…　僕の考えは…　みんなで思考をめぐらせました。

その後、白熱する議論（**下写真**／スクリーンに映っている情報等は割愛してあります）。
多数決、その他（自分）の考え、意見交換など経て、AI の思考も参考にして改良を進めて…

そして、出た**【最終的なプロンプト】**が、



－－
・**【主人公】（小学校 5 年生の男の子）**
・**【舞　台】（50 年後、2076 年の東京）**
・**【起こること】（UFO との遭遇）**
・**【物語の雰囲気】（冒険スリラー）**

・1,000 字程度で、最初から最後まで一つの物語として完成させてください（タイトル含む）。
・小学生でも楽しめる物語を作ってください。
・読んだ人が「続きが読みたい」と思えるような物語にしてください。
－－

▶**このプロンプトで、AI が小説を完成させてくれました。**

▶みんなで、それを音声出力で聴きました。

写真／なかなか、いい出来栄えだ！（ニンマリ）。

※生成された小説は、最後にお楽しみください。

8. 実習②「挿し絵を作ろう」
9.「文章＋画像」で作品完成

次に「画像生成 AI」を使います。
単純に「完成した小説の挿し絵を描いて」と指示を出しても面白くないので、プロンプトは…

「**完成した小説の表紙デザインを作成してください。ベストセラーになりますように！**」

と、お願いしてみました。

※生成された表紙デザインは、最後にお楽しみください。

10. AI 時代！ 子どもに必要な力

AI 時代に必要な５つの力とは「**考える力／質問する力／判断する力／表現する力／ AI を使う力**」であり、そして AI が進歩するほど、人間が「何を考えるか」が重要になります。
AI に答えを考えてもらう → AI と、さらに一緒に考える → AI を使って自分の考えを形にする。
だからこそ、私たちは「AI を禁止する」逆に「何でも AI に任せてしまう」のではなく、「AI をどう使えば、自分で考える力を伸ばせるのか」を探求（探究）することが大切なのです。
今後も「マップ教育センター」の未来チャレンジに、ご期待ください。

完成作品へ GO！

『東京 2076 夜空の向こう側』

▲ Click here ▲